

薬剤のアレルギー歴を聴取して点眼薬の変更を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、薬剤のアレルギー歴を聴取して、術後の点眼薬の変更を提案し、アレルギーの発現を回避できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶原発開放隅角緑内障に対する手術目的で入院された患者

【術後に予定されていた点眼薬（一部抜粋）】
ガチフロ点眼液 0.3% 1日4回 右眼点眼
（成分名：ガチフロキサシン）



Aさん

持参薬確認時



Aさん

これまでに、薬でアレルギーが起きたことはありますか。

7年ほど前にクラビット錠[※]を飲んで、足に発疹が出て中止になったことがあります。

※成分名：レボフロキサシン



薬剤師

そうでしたか。入院中に抗菌薬を使用する際は注意しますね。

ガチフロ点眼液が手術後に開始予定だが、クラビット錠にアレルギーがあったはず。

Aさんですが、キノロン系抗菌薬のクラビット錠にアレルギーがあるようです。術後に使用予定のガチフロ点眼液は、キノロン系抗菌薬に該当し、キノロン系抗菌薬に過敏症の既往歴がある場合は禁忌となっております。他の系統の抗菌点眼薬としてベストロン点眼液への変更はいかがでしょうか。



医師

そうだったんですね。アレルギーの情報提供をありがとうございます。ガチフロ点眼液は、ベストロン点眼液に変更します。



術後の抗菌点眼薬は、ガチフロ点眼液からベストロン点眼液に変更となり、感染等の合併症や副作用症状なく経過し、退院となった。

患者のアレルギー歴を聴取して、同系統の点眼薬の使用を回避することで、安全な薬物療法に貢献できた。